

2020年度地域協働フィールドワーク

活動報告書



目次

p.3 はじめに

p.4 メンバー紹介

p.5天売島訪問について

p.6 Webサイト制作について

p.7 おわりに

はじめに

北海学園大学経済学部を学生を対象とした特別講義「地域インターンシップ」がこの活動の母体です。地域インターンシップは2016年度に私たちの先輩たちが天売島を訪れた際に始まりました。島民の方々と触れ合っていく中で離島独特の地域性や天売島が抱える問題を知り、自分たちが天売島に何をすることができるかを考えました。この時考え出されたものが、天売島での暮らしや仕事にまつわる歴史を次世代に伝えていくための書籍を作ることを、当時天売島に放置されていた空き店舗を再活用することでした。

5年目となった現在は、新型コロナウイルスの影響で、大人数で天売島に行き、活動することが困難な状況になったため。「てん」を利用した飲食活動は行うことをせずに、今後、「てん」を様々な人に使ってもらえるようにWebサイトを作成することとした。

2020年度の取り組みでは、直接島民の方と関わる機会というのは例年に比べて少なかったものの、実際に天売島に訪れることができ、関係性をとだえることなく活動ができたことが大きな収穫と言えるのではないのだろうか。

この報告書では今年度のメンバーが揃った4月から一年間の活動を報告させていただきます。最後にはなりますが、プロジェクトをご支援いただいたおらが島活性化会議様、天売島の島民の皆様、地域協働フィールドワークに関わる北海学園大学経済学部、北海道エンブリッジ様に感謝申し上げます。

2020年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク

代表 経済学部地域経済学科3年

森下 龍弥

メンバー紹介

Web班



森下 龍弥(2年)

OB

市川 雄二郎

渡部 凌

今年度のメンバーが1人であったため、天売島訪問の際には昨年度まで活動に参加していたOBのお二人も同行して頂けることになりました。

お二人と、天売島のあいさつ回りをご一緒させてもらったり、天売島の案内など沢山のことでお力を貸していただきました。

ありがとうございました。

タイムテーブル

8/21	8/22	8/23	8/24	8/25
天売島着 あいさつ回り	天売島にて トーチイベント	焼尻島にて トーチイベント	天売島に戻り てんの調査	備品整備 学園着

天売島訪問について

2年生 森下 龍弥

2020年度の活動では、大人数で天売島に訪問をして活動を行うことが困難とされたため、オンライン上でも活動を行うことができる、Webサイト制作に必要な人員(1名)で活動を行うこととなった。

当初の予定では、天売島に訪問することすらも厳しいと思われていたが、天売島で、感染対策を十分におこなったイベントが行われる予定があり、坂本さんのご厚意により、イベントのお手伝いをさせて頂けることとなったので、実際に島に訪問することが可能となった。

イベントでは、天売島で問題となっている間伐材の再利用をうながす方法として、天売島の間伐材を利用したスウェーデントーチを使用して見て、間伐材の利用価値を再認識するというものであった。1日目には、天売島で行い、2日目には焼尻島で同イベントを開催した。また、特別講義として、SDGsの専門家である溝渕清彦先生による講義が開かれた。



スウェーデントーチに火を付けている様子。
火力もあり、キャンプなどで、実用性がとてもありそうでした。

また同時に、Webサイト制作に必要な情報と素材を集めることも行った。

実際に制作するサイトの現場を使用することで、雰囲気を確認し、どのようなサイトを作成するかのイメージを膨らませることが狙いである。実際に体験をする行為というのは、自分の中で不明瞭であった要素を明確にしてくれるので、とても意味のある行為であったといえる。

Webサイト制作について

2年生 森下 龍弥

2020年度の主な活動は「てん」のWebサイトを作成することであった。

目的は、「てん」を様々な人に利用してもらうためである。その理由として、今までは本校の学生が訪れたときにだけしか使用されていなかった「てん」を様々な人に利用してもらうことで、天売島の交流の場としての価値をより高めるためである。

天売島訪問を終えた翌月から、サイト制作に取り掛かった。

主に、

- ・サイトマップ
- ・デザイン
- ・コーディング
- ・仮アップ
- ・本アップ

それぞれの作業の期間は、約一か月で、これらの作業をおこなった。

定期的に本校の先生と、浜中さん、坂本さん、平野さんとZOOMにて会議を行い、サイト制作に関する助言をいただいたり、坂本さん、平野さんをお願いをして、サイト制作に必要な素材をいただいた。

サイトのサーバーやドメインの取得に関しては、浅妻先生が行ってくれたため、コチラの作業は学生では行わなかった。



実際のWebサイトの画像

おわりに

今年度で、5年目となった活動ですが、活動参加者が著者1名であったこともあり、当初は、なにをすればよいのか、どのようにすすめていけばよいのかと考える時間がとても多く、先の見えない不安でいっぱいでした。

実際に、どのようなサイトを制作するのかということに関して、サイトの内容をはき違えていたり、サイトの文章を作成する際に適切な表現をすることができなかつたりと、自分の中で沢山の反省がありました。ですか、実際に天売島に訪問をした際に、「てん」について知ることができ、「てん」のありたい姿というのを再認識することができました。方向性が明確になったことをきっかけに、やるべきことも明確になったため、自分なりの動き方ではありましたが、サイトを制作するという点において、しっかりと行動することができたと思っています。

来年度も、天売島に訪問することが厳しい状況であると思いますが、どのような状況になっても、天売島のことについて真剣に考えることで、必ずやれることがなにかしらあると思います。現時点では、それが何なのかを示すことはできませんが、来年度には、それが天売島のためになるのか、誰のためになるのかを改めて考えて、新しいことを始めて行けたらと思います。この気持ちをもって、今年度の反省も生かし、しっかりと活動を継続していけるよう尽力したい所存です。

最後になりますが、例年では、1年に数回の訪問といった形でしたが、現在では、それすらもかなわない状況になりうるかもしれません。どのような状況になったとしても、島民の皆様、関係者の皆様、変わらないばかりか、より暖かさを増していると感じますご厚意には、感謝の気持ちでいっぱいです。来年度以降もメンバーは変り、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、取り組みに対する情熱はしっかりと持っていると思いますので、今後ともお力添えをいただければ幸いです。

2020年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク

経済学部地域経済学科 2年

森下 龍弥